僕たちは希望という名の列車に乗った（2018）

DAS SCHWEIGENDE KLASSENZIMMER
THE SILENT REVOLUTION

メディア 映画
ジャンル ドラマ　伝記
製作国 ドイツ
時間 111分
初公開日 2019/05/17
公開情報 アルバトロス・フィルム＝クロックワークス
映倫 G

【解説】

東西冷戦下の東ドイツを舞台に、ディートリッヒ・ガルスカが自らの高校時代の体験をつづった自伝『沈黙する教室』を、「アイヒマンを追え！　ナチスがもっとも畏れた男」のラース・クラウメ監督が映画化した青春群像劇。ハンガリーで起きた動乱によって市民が犠牲になったことを知った高校生たちが、純粋な気持ちから授業中に行った２分間の黙とうが国家への反逆とみなされ、当局によって追い詰められていく中で繰り広げる葛藤と友情の行方を描く。

まだベルリンの壁が建設される前の1956年の東ドイツ。エリート高校に通い、青春を謳歌していたテオとクルト。ある日、西ベルリンを訪れ、映画館に入った２人は、ニュース映像でハンガリーの民衆蜂起を知る。市民に多くの犠牲者が出たことに心を痛めた彼らはクラスメイトに呼びかけ、教室で２分間の黙とうを敢行する。それは純粋な哀悼の気持ちから生まれたささやかな行動だったが、ハンガリーと同じくソ連の影響下にある東ドイツでは、たちまち社会主義国家への反逆とみなされ、政府が調査に乗り出すほどの大問題へと発展してしまう。生徒たちは１週間以内に首謀者を明かすよう命じられ、従わない者は全員退学と宣告されてしまうのだったが…。

【クレジット】

監督	ラース・クラウメ	Lars Kraume	
原作	ディートリッヒ・ガルスカ		
脚本	ラース・クラウメ	Lars Kraume	
撮影	イェンス・ハラント	Jens Harant	
編集	バーバラ・ギース	Barbara Gies	
音楽	クリストフ・カイザー	Christoph Kaiser	
	ユリアン・マース	Julian Maas	
出演	レオナルド・シャイヒャー		テオ・レムケ
	トム・グラメンツ	Tom Gramenz	クルト・ヴェヒター
	ヨナス・ダスラー	Jonas Dassler	エリック・バビンスキー
	ロナルト・ツェアフェルト	Ronald Zehrfeld	ヘルマン・レムケ
	ブルクハルト・クラウスナー	Burghart Klaussner	ランゲ国民教育大臣
	レナ・クレンケ	Lena Klenke	レナ
	イシャイア・ミヒャルスキ	Isaiah Michalski	パウル

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.